

## 特別追加レッスンレポート

2016年1月23日(土)

銀座書齋・奥の聖域にて

ベートーベン作曲・交響曲第5番を鑑賞

この度、ベートーベン作曲・交響曲第5番を100回聴き終えた  
節目として奥の聖域にて改めて鑑賞させていただけることになり、  
私が自宅にて100回聴いたCD(ヴィルヘルム・フルトヴェングラー  
指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団)または生井先生  
が準備して下さったCD(別の指揮者・楽団)のどちらかを  
選択させていただけるとの事、後者に決定。

一般的なクラシック鑑賞会で人を集めるには、やはり  
ベートーベンやモーツァルトの曲を演奏すると大変喜ばれる  
との事。現代でも作曲をしている人はいるがベートーベンや  
モーツァルトの曲には到底及ばないという説明を受け、  
オリジナルを産み出すことの偉大さを改めて実感。歴史に  
名を残した作曲家を超えることができない現代の音楽家は、既に

存在する偉大な作曲家の交響曲を個々の解釈によって演奏する。(このような芸術を解釈芸術という。)

“小差 (subtlety) を感じ取りながら鑑賞して下さい”とお話の後、生井先生が心を込めて、奥の聖域の準備をして下さり、その後私は慎重にそちらへ移動。

心をしずめた後に鑑賞が始まる。

今回、生井先生の仰った subtlety を感じ取りたかったので音に集中するために目を閉じると第1章から明らかに違うことを感じる。強弱、テンポ、リズムなど100回聴いたものには無い音を感じ取り、同じ曲でもこれほどまでに違いがあるのかと大変驚いた。特に曲全体にメリハリが利いていて、交響曲第5番のメッセージである“心を強く持とう”という励みと共に、更に、“限りある時間の大切さ”を伝えられたように感じた。

あっという間に第4章までの鑑賞が終わり、その後しばらく

心拍数が上がっているのを感じた。私は長い間のアスリートの経験から、心と体が闘争モードに切り替わったことを実感し、本物の曲が人の心や体に与える偉大な影響力を肌で感じ取ることができた。

以上が今日の鑑賞のレポートです。

生井先生

本日も大変貴重なお時間をありがとうございました。

先生が与えて下さる特別レッスンでは毎回新しい発見があり、自分の人生において大変価値のある経験として刻まれています。

これから、もともと努力してまいりますので引き続きご指導のほどよろしくお願い致します。